

## 「いわい東米」で使用している農薬の説明

商品名	主成分を示す一般的名称 (農薬の種類名)	使用目的 (摘要病害虫・雑草)	使用量	使用時期	使用回数
テクリード水和剤 ※1	イプロナゾール	種子消毒 (苗いもち病・ばか苗病・ごま葉枯苗 苗立枯れ苗)	①吹付 7.5倍(JAよりの購入の場合) ②200倍液に24時間種子浸漬 (無消毒種子の場合)	浸種前 ※種子購入時には吹付処理済	1回
ダコニール1000	TPN水和剤	苗立枯苗予防	1,000倍液→0.5リットル/育苗箱 土壌かん注	種蒔き時	1回
Drオリゼスタークル箱粒剤	ジノテフラン プロベナゾール	葉いもち病・初期害虫防除 (イネミズゾウムシ・イネドロオウムシ等)	50g/育苗箱 育苗箱の上から均一に散布する。	田植え3日前～ 田植え当日	1回
クサトリ-DX剤 ※2	フェントラザミド プロモブチド ペンスルフロンメチル	雑草防除	ジャンボH 400g/10a	田植え後3日～ノビエ2.5葉期 (使用適期 田植え後3日～13日後)	1回
			フロアブルH 500ml/10a	田植え直後～ノビエ2.5葉期 (使用適期 田植え後直後～13日後)	
			1kg粒剤75 1kg/10a	田植え直後～ノビエ2.5葉期 (使用適期 田植え後直後～13日後)	
バサグラン粒剤・液剤	ベンタゾン	雑草防除	粒剤 3～4kg/10a	田植え後15日～50日	1回
			液剤 500～700ml/10a (希釈水量10～100L)		
コラトップ粒剤・ジャンボ剤 ※3	ピロキロン	穂いもち病予防	粒剤 4kg/10a	出穂20日前～5日前	1回
			ジャンボ剤 600g/10a		
ダントツ粉剤・水溶剤 ※3	クロチアニジン	カメムシ防除	粉剤 3～4kg/10a	穂揃い期～ 穂揃い1週間後	1回
			水溶剤 25g/10a		

※1 種子更新率を100%行うこととしており、岩手県農産物種苗センターで調整及びテクリード水和剤を吹付け処理した種子を使用しています。

※2 田植え直後から使用できる剤があるものを選定し大規模圃場での田植え同時散布(フロアブルH散布)を行い、作業効率を上げています。

※3 ラジコンヘリコプターによる集団防除を行い、散布時期のバラツキをなくし防除効果を上げています。